

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E113B004		保育の指導 (環境) (Method of Infant Education)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択必修	2	3	教育学部			氏名 永田 誠 E-mail m-nagata@oita-u.ac.jp 内線 7559												
授業の概要	領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関り、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。本講義では、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即した主体的・自発的な経験が生まれる具体的な場面を想定した保育計画を構想するとともに、振り返りを通じた保育を改善する視点を身に付ける。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容について理解を深める。																		
目標2 現代の幼児を取り巻く自然環境、社会環境の変化について説明することができる。																		
目標3 現代における幼児の生活経験をもとに、幼児教育における実践事例について理解する。																		
目標4 子どもの日常生活環境を踏まえた保育計画の立案・実施と、振り返りを通じた保育を改善する視点を身に付ける。																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 幼児教育・保育に関する基本的理解																		
2 領域「環境」のねらいと内容(1) 幼稚園教育要領等における「環境」の位置づけ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から考える																		
3 領域「環境」のねらいと内容(2) 幼児教育・保育における領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」に関する具体的な保育の活動事例から																		
4 領域「環境」のねらいと内容(3) 小学校教育との関連 「幼保小の接続・連携」とアプローチカリキュラム、スタートカリキュラム																		
5 領域「環境」のねらいと内容(4) 小学校教育との関連 生活科、『総合的な学習の時間』と保育のつながり																		
6 子どもの発達と環境(1) 日常生活と環境のかかわりを考える (グループワーク) 日常生活と環境のかかわり																		
7 子どもの発達と環境(2) 環境の定義と日常生活とのかかわり																		
8 身近な植物と遊びの工夫(1) 身近な自然物との関わり (学内フィールドワーク) 身近な自然物を探そう																		
9 身近な植物と遊びの工夫(2) 身近な自然物を使った教材作成																		
10 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(1) 保育指導計画の作成(情報機器及び教材の活用を含む)																		
11 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(2) 教材研究と環境構成(情報機器及び教材の活用を含む)																		
12 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(3) 模擬保育の実施と相互評価 自然物を取り入れた遊び																		
13 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(4) 模擬保育の実施と相互評価 文字や標識、数量や図形に親しむ遊び																		
14 領域「環境」に関する保育計画の立案と実践(5) 模擬保育の振り返りと改善																		
15 子どもの「生きる力」の基礎を育む「環境」と体験の関わり																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	・保育計画の立案と実践においては、他科目等で得た知見も活用することで理論の統合を図る。										工夫	その	他の				
	B:意見の表現・交換	・多様な見方に気づくため、模擬保育に対する受講生間の相互評価を取り入れるとともに、評価を踏まえた自己ならびにグループでの振り返り																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	教材研究・開発(10h)																
	学修	保育指導案の作成(10h)																
	事後	講義内容の振り返りによる知識の定着(15h)																
	学修																	
教科書	必要な資料については、授業内で配布する。																	
参考書	・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館、2018年																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	学期末課題レポート	30%																
	模擬保育と実践に対する省察	40%																
	授業課題への取り組み等	30%																
注意事項	本講義は、一部でグループワークや模擬保育といった演習形式にて進めるため、受講生の積極的な授業参加を望む。授業・課題への取り組み状況などは、成績評価に厳密に反映する。																	
備考	履修者の関心ならびに授業の進捗状況によって、講義内容・計画を変更することがある。																	
リンク	URL																	